

健康寿命の延伸、医療費の適正化、医療分野の新産業・新たなサービスの創出に向け、医療・健康・介護データの利活用について以下のICT基盤構築を推進  
 ※ EHR: Electronic Health Record PHR: Personal Health Record

【EHR】・医療機関や介護事業者が、患者情報等を共有する基盤(EHR)の高度化や、EHR間を相互接続してデータ活用を行うための基盤の構築

【PHR】・個人が、医療・健康等データ(PHR)を本人の判断のもと生活状況等に合わせた各種サービス提供に活用するための基盤の構築

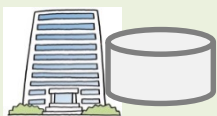
## ＜医療等分野共通サービス＞



8K技術やAI等のICTの医療分野への活用を推進 (H28補正:6億円)

モバイルやクラウド等を活用した遠隔医療の推進

## ＜自治体・保険者＞



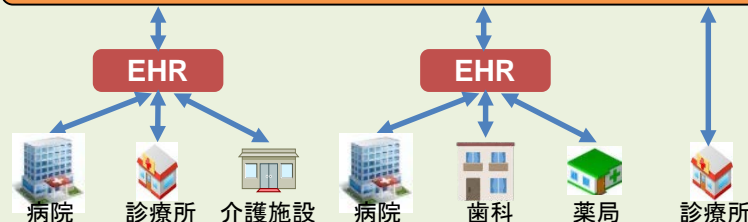
AI等のICTを活用したデータヘルスの推進 (H29当初:2億円)

健康診断・健康指導等

データ提供 (本人同意)

## ＜医療機関、介護事業者のネットワーク化＞

### EHR相互接続基盤



クラウドを活用し、標準準拠、双方向、多職種の連携推進 (H28補正:EHR高度化20億円、相互接続基盤8億円)

※ 厚労省の地域医療連携ネットワーク普及策を活用し、成功モデルを全国普及

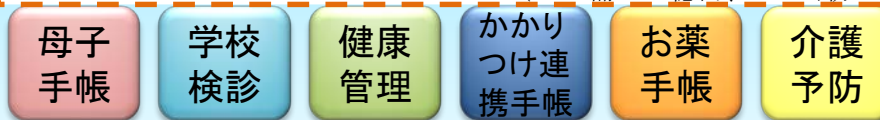
医療・健康・介護サービスの提供

データ提供



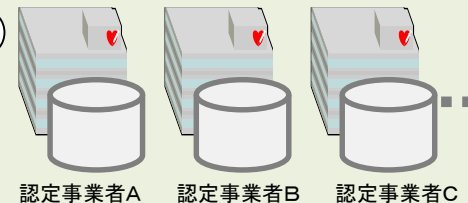
本人に合わせた多様なPHRアプリケーションの提供を実現

(H28補正:6億円、H29当初:1億円)



## PHR連携基盤

## ＜認定匿名加工医療情報作成事業者＞



認定事業者のセキュリティ要件検討

匿名加工情報

クラウド上のデータ管理サービス等



データ保管

## ＜研究機関・製薬企業等＞



匿名加工情報を活用し、医療の質向上や新薬の開発等の促進

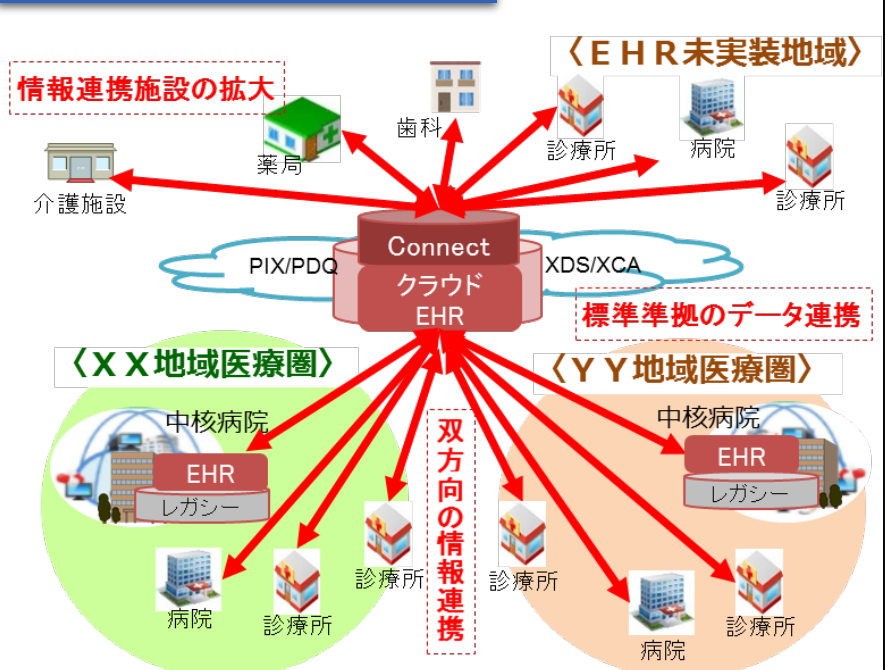
ネットワーク面の課題	2017-18年度の取組
<p>【EHR関係】</p> <p><b>1. 患者・医療機関の参加率向上</b> ～患者参加率は全国民の1%未満、病院・診療所の参加率は各々30%、10%と低調</p> <p><b>2. 広域での情報連携ルール策定</b> ～患者情報を広域で共有可能にする際のルールやセキュリティ確保方策の不存在</p>	<p><b>(1) EHR成功モデルの構築・横展開</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ クラウドを介した施設間の低廉な双方向情報連携</li><li>・ 異なるベンダー間でも接続可能な標準仕様策定</li><li>・ 医療・介護にわたる総合的な情報共有モデルの構築 等</li></ul> <p><b>(2) 広域で医療情報を共有するための運用ルールなどの整備</b> (※旅行時、転居時などに参照)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ EHR相互接続基盤のセキュリティ確保方策</li><li>・ 患者情報の共有ルール</li><li>・ 接続する医療機関の認証方法 等</li></ul>
<p>【PHR関係】</p> <p><b>3. データ活用メリットの最大化</b> ～サービス毎のデータの囲い込みを防止し、サービス間連携を推進する必要性</p>	<p><b>(3) PHR活用基盤の整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 利用者認証方法(マイナンバーカード等)</li><li>・ プラットフォーム機能(異なるシステム間のデータ連携)</li><li>・ データポータビリティの確保 等</li></ul>

# 【参考】医療機関等によるデータ利活用のための基盤構築（EHR）

- 医療機関や介護施設に存在するデータは、個別の施設内や施設間で利用するために集められているものが多く、他の施設での共有・活用を可能にするためにはネットワーク化及びデータの標準化の取組が不可欠。
- このため、標準準拠かつ双方向のクラウド型EHRの構築を推進(※1)するとともに、今後のEHR間の広域連携に向け、相互接続の在り方(セキュリティ確保方策や、データ共有のための運用ルールなど)について、厚生労働省と協力して、実証を実施(※2)。

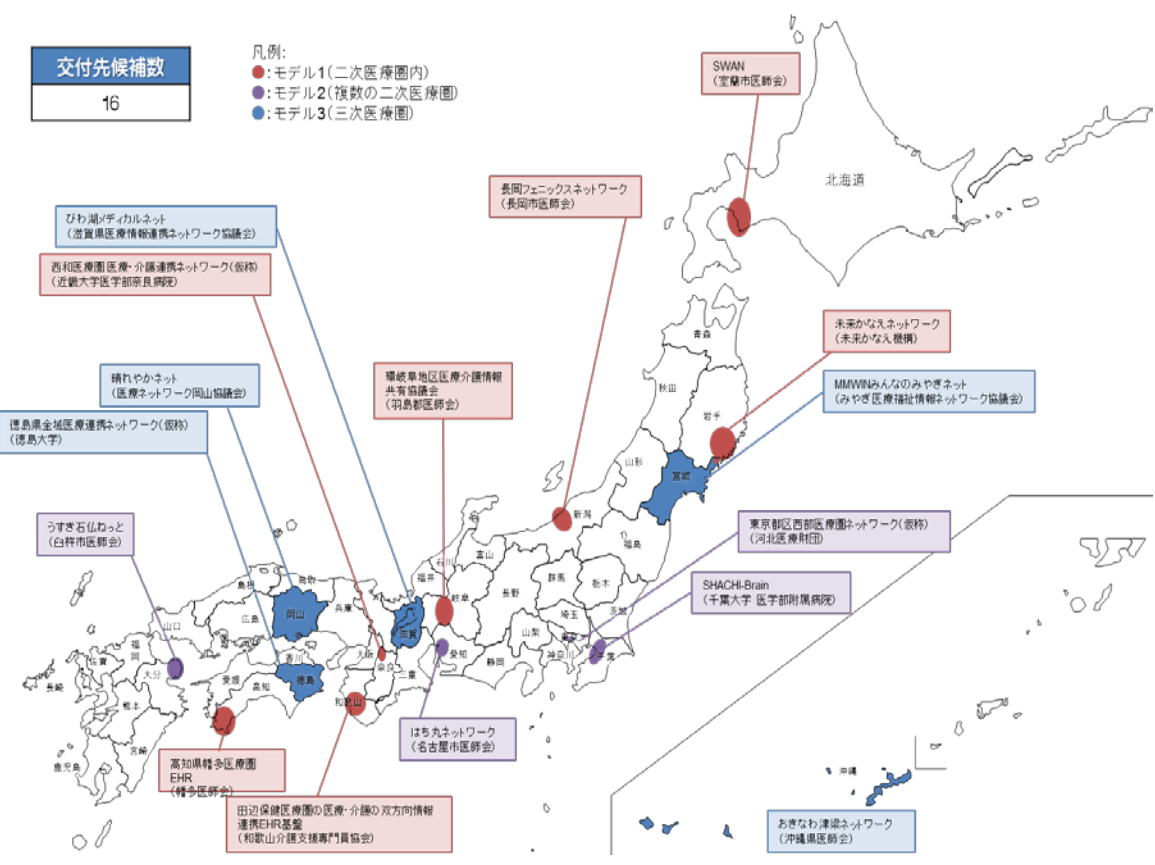
※1: H28補正予算20億円(補助事業): H29年3月7日に16団体を採択候補に決定、H30年3月末まで事業を実施  
 ※2: H28補正予算 8億円(実証事業): H29年3月中旬に事業者決定予定、H30年3月末まで事業を実施

## クラウド型高機能EHRの構築



- 双方向の情報連携実現
- クラウドの活用、標準準拠により低廉化、データ活用容易化
  - 薬局や介護施設等も連結(訪問介護・看護の情報も統合)
  - EHR未実装地域の病院・診療所とも連結しデータを蓄積・活用

## ＜クラウド型EHR高度化事業補助金交付先候補一覧＞



# 【参考】個人によるデータ利活用のための基盤構築（PHR）

- 現在、医療機関や介護施設、自治体、各種サービス提供事業者、個人のストレージ(クラウド、端末)に存在する個人の医療・健康等データは、各機関・事業者等で閉じて利用されており、横断的かつ継続的な活用ができていない。
- 本人によるデータへのアクセスや特定のアプリケーションに閉じないデータの持ち運びを可能にし、生涯を通じたPHRの管理・活用の実現に向け、本人の判断のもとで効果的にPHRを活用するため①母子、②疾病・介護予防、③生活習慣病重症化予防、④医介連携のライフステージごとのサービスモデルを検証するとともにサービス横断的にデータを活用する情報連携基盤(プラットフォーム)の構築を推進(H28年度～H30年度)(※)。

※: H28当初:5.7億円、H28補正:6億円、H29当初:1億円

